共催:薄層屋上緑化技術協会/一般社団法人 緑のまちづくり支援機構第13回屋上 株家 化 WEB 講演会

共催:薄層屋上緑化技術協会 一般社団法人 緑のまちづくり支援機構

国土交通省•東京都環境局•大阪府環境農林水産部後援

第13回 屋上緑化WEB講演会報告

第13回屋上緑化講演会は大盛況を持って終了致しました。 参加頂いた皆様(約118名)有難うございました。 以下、簡単にご報告させて頂きます。

■日時:2023年11月21日(火)

13:30~16:50

■開催方式:WEB講演会(Zoomライブ配信)

■進行:

1. 講師 ・杉井 志織氏(社団法人日本生花通信配達協会 JFTD学園 日本フラワーカレッジ講師/NHK 趣味の園芸講師)

講演テーマ:「都市の中に溶け込む園芸植物・花合わせと色合わせ」

2. 主催者発表 ・橋本 裕介氏(株式会社イーエス・ウォーターネット)

講演テーマ:「SDGs水利用の見える化」

3. 主催者発表 ・宮下 哲司氏(京和グリーン株式会社)

講演テーマ: 「会社紹介、壁面緑化について」

4. 講師 • 忽那 裕樹氏(株式会社E-DESIGN 代表取締役)

講演テーマ:「オープンスペース・ネットワークが開くまちづくり- 大阪・関西万博とその後の展開に向けて」

1.「都市の中に溶け込む園芸植物・花合わせと色合わせ」: 杉井 志織 氏

取り組んできた実例を挙げて、都市の中に溶け込む園芸植物と園芸活動について紹介。老人ホームの屋上では夏の暑さに強く晩秋まで楽しめる品種選びを工夫し、街中にある花壇では街の景色に季節の移ろいの変化が溶け込むように「見せる庭」を提案した。人通りの多い駅前の花壇は歩きながら色彩の展開を誘導できるような仕組みを作り、日陰地は空間を明るくする為花色ではなく葉色で彩りを演出した。ボランティア花壇は誰でも維持管理がしやすいように植物の特性を利用して環境に合わせた植物選びを大事にしている。パラマラソンの道端にある花壇の植栽計画では、耐暑性・連続開花性のある優れた品種の採用にも挑戦した。その他にも実例を踏まえた上で近年の酷暑でも管理しやすい品種や、先々の季節を見越した花合わせの方法等を紹介。園芸活動は、心のお手伝いとして東北被災地の中学校で学校の花壇作りに子ども達と取り組んでいる。コロ



ナ禍の2021年現地に赴けない中、上海花博覧会にも出展し日本庭園風の設計で最優秀設計賞を受賞。植栽計画を行う際には植栽空間の目的、植栽地の環境、マンパワー、金額等を総合考慮した上で適した品種選び/色選びが必要になる。昔に比べると資材や材料、品種も良いものが揃っているので、園芸植物の多様性を活かして、植物のパフォーマンスが最大限引き出せるような見極めをザイナーや設計者が考えられる時代になる事を願う。

2.「SDGs水利用の見える化」: 橋本 裕介 氏



事業分野についての紹介。水に関係する分野は「農業・環境緑化・工業・海外」を事業として行っている。

世界中の優れた品を日本向けに販売しているが、特にドリップチューブは圧力が変動しても端まで均一に水を撒く技術を誇っている。又灌水による SDGs として様々な水の有効活用方法を提供している。その 1 つ「水の見える化」として新製品「OMEGA」を紹介。クラウド管理が出来てスマホや PC で制御可能、1 台で 13 台のバルブの管理が可能となる ES 遠隔灌水管理システム。遠隔操作現場に行かずに設定や管理が可能となりコスト削減、信号線工事が発生しない、土壌水分センサーにより無駄な水は使用しない、流量計に従い状況把握が可能というメリットがある。今後の展望として暴風雨等の災害時に水位センサーによる排水、水害時の機能を展開していく予定。

3. 「会社紹介、壁面緑化について」: 宮下 哲司 氏

薄層の壁面緑化、屋上緑化、環境緑化の提供や管理メンテナンスを事業として行っている。緑化ユニットにはエクセルソイルを使用し、2006年には壁面緑化用の基盤材としても使用を開始した。壁面緑化はユニット型壁面緑化で、1つのユニットには 16株の植物を植えている。6か月程農場で育成し、エクセルソイルに根が張り、ユニット全体に繁茂して安定した状態で現場に出荷する。壁面緑化は 2005年愛・地球博頃から普及を始めたが、垂直の壁に取り付けるため植物にとっては非常に過酷な環境である。設置高さや位置、現地に適した灌水時間の調整には十分配慮している。植物にはリラックス効果や大気の浄化、SDGs等今後の地球環境には欠かせない効果があるので、持続可能な地域社会の実現を目指し、グリーンインフラの取り組みを理解して進めていきたい。

4.「オープンスペース・ネットワークが開くまちづくり 一大阪・関西万博と、その後の展開に向けて」:忽那 裕樹 氏

公園や広場などのオープンスペースがまちの魅力を育む役割とその方策について忽那氏が携わった大阪府での実例を挙げて紹介。社会環境をデザインする要素は「使いこなし→仕組みづくり→環境デザイン」である。この構成のきっかけとなったのは阪神淡路大震災後に大日六丁目商店街のアーケードを掛け替えるという事例であった。コミュニケーションの場となるためには形を作るだけではなく法律の仕組みを変えて活動を新たに作り出し全部をデザインするべきだと気づいた。更に水都大阪 2009 を契機として水の再生をもって大阪の再生とする新たな取り組みが始まり、忽那氏は相互に価値を提供しあう公共の場 = オープンスペースを提案した。その実現が大きく飛躍したのは 2013 年に民間主導の新体制「水都大阪パートナーズ」が設立したからである。水都大阪パートナーズは行政と地域の間に立ち、大阪風習の仕組みを変えるという継続的な目的



を持つ中間支援組織である。中之島オープンテラス、GATE、北浜テラス、泉南りんくう公園、草津川跡地公園も中間支援組織が主導し成功へと導いた。その地の魅力を使いこなし楽しみを分かち合い、誇りと愛着を持ち、ビジョンを立てて小さな "活動"から始めていくこと。構想を持ち続ける事が大切であり、市民の日常の中に"活動"のある風景が次の未来を作っていける。オープンスペース・ネットワークが築く社会を一緒に作っていきたい。

第13回 屋上緑化WEB講演会 アンケート結果 24名回答/118名参加

【問 | 】職業

 2

 10

 5

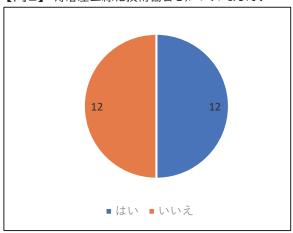
 6

 連盟会社

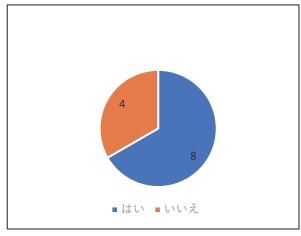
 電公庁

 その他

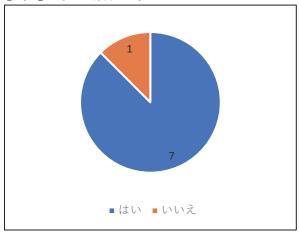
【問2】 薄層屋上緑化技術協会を知っていましたか



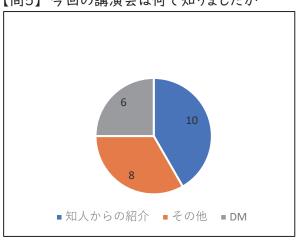
【問3】過去の講演会を知っていますか



【問4】 過去の講演会に参加したことがありますか



【問5】今回の講演会は何で知りましたか



【問6】今回の講演会の感想

